

辻 靖司さんのお話を聴いて

丸子修学館高等学校 三年 平田 つぐみ

今回の講演を聴いて、改めて原爆の恐ろしさを知りました。今まではテレビで写真と一緒に説明しているものや動画内にあるもの、アニメ等で見てきました。しかし、恐ろしさも、なにか他人事のように思っていました。これはやはり現代人ならではの感じ方だったのではないかと、今回の講演を聴いて実感しました。

私は今、日本史で第二次世界大戦について学んでいます。戦争自体でさえも恐ろしいのに、原爆というもう一つ恐ろしいものがあることを実感し、帰宅時の車中や家でもよく親と話しています。「外国が日本を恐れていたからこそまでしたんだよ」とか、「広島や長崎に原爆を落とす、それも実験で落としたのかもしれない」と聞いて、戦争なのに？と思いました。

講演の中で、「目の前が真っ白になった」とか「階段には死体が・・・」など聞きましたが、想像もできない光景だと思いました。三千・四千度近い熱をあびても必死に生きていこうとする姿勢や、寺前さん（注1）の先生（注2）みたいに混乱の中助けようとする意志の強さに、とても感動しました。

このような話をいろいろな場所で聞いて、一度でいいから広島を訪れ、博物館などに行ってみたいと思いました。

今と昔では違う、と言って片付けず、もう二度と同じことを繰り返さないためにも私たち現代人が教訓として学んで、次の世代に引き継いでいくことを大切にしていきたいと思いました。

今回の講演でも、『建物疎開』や原爆の爆風について新しい知識も知ることができたので、歴史についてもっともっと知りたいなと思いました。たし、今の政治についても、もっと考えていこうと思いました。

*注1…寺前妙子さん。高等学校3年の時に広島で被爆。左目を失う

*注2…脇田千代子先生 当時二十二歳